

# 年間企画 第2部・群像

⑤

## 団塊の船出

### 大量退職元年

生まれは現在の長崎市蚊焼町。五歳のころ転居し、同市中心部で育った。今は同市大浦町で医院を営む。医師になる前は、北九州市の工場の現場で働いていた。異色ともいえる経歴は、高校卒業後に進んだ九州大(福岡市)で遭遇した、ある事件から始まった。エンジニアを志して同大工学部に進学。二年生だった一九六八年六月、キャンパス内で建設中の施設に、近くの基地に着陸しようとした米軍機が墜落、炎上した。

当時、学長が先頭に立ちデモ行進する抗議運動に発

開業医

## 高比良 拓重さん(58)

＝長崎市＝



「遠回りなんてない。これが人生」と話す高比良拓重さん＝長崎市大浦町、たかひら内科・循環器科

展。全国でベトナム戦争に反対する学生らの全共闘運動が激しさを増していた中、同大でもこの事故を機に運動の火が燃え上がった。「初めはノンポリ(政治的無関心層)だったが、社会的無関心層)だったが、社会の中にあることを初めて現実として感じた」と、自らも運動に加わった。次第に運動に熱中し、デモで逮捕されたこともあった。当

「初めはノンポリ(政治的無関心層)だったが、社会的無関心層)だったが、社会の中にあることを初めて現実として感じた」と、自らも運動に加わった。次第に運動に熱中し、デモで逮捕されたこともあった。当時

二年遅れで七三年三月卒業。同時に結婚したが、就職は決まっていなかった。気が付けば、一緒に運動した学生の多くが就職を決めていた。底辺の労働者とのつながりを目指し、同年五月に高卒資格で北九州市の金属工場に職を見つけた。二年後、別の会社に転職。だが三十歳で急性肝炎に倒れ、二度にわたって入院した。

# 弱者の手助けしたい

## 理想を追求 異色の経歴

「妻には随分迷惑を掛けたが」とほほ笑む。振幅の大きかった半生は濃密で、ひと言で表せない感慨もある。ただ「弱者の手助けをしたい、という気持ちは学生時代から変わらない」と言う。「患者と同じ目線で、寄り添うような医療」という理想を、今は追いたいと思っている。

(報道部・山口恭祐)